

フラッシュユ

JA青森



地域全体で健康な土づくりを 土壌診断講習会 (3/9)

JA青森とまと部会東つがる支部は、JA蓬田支店で土壌診断講習会を開き、部会員やJA担当者ら約20人が参加した。講習会では、高温時の萎れ対策や、実際の土壌診断結果に基づいた適正な施肥設計の方法などについて学んだ。同支部では、生産者全員がエコファーマー認定を受け、土壌診断の結果を活用した健康な土づくりに努め、安心・安全で美味しいトマト生産を目指す。

JAつがるにしきた



水稻育苗期の重要作業を確認 (3/15)

JAつがるにしきたは、五所川原市で水稻栽培講習会を開き、生産者38人が参加した。水稻栽培の種もみ準備作業を前に深浦町、鯉ヶ沢町、つがる市、中泊町など各地で講習会を開いた。講師は「田植え予定日から逆算しスケジュールを組み作業するように。特に浸漬処理の種子消毒は、効果を高めるため薬液温は10℃以下にしないことが重要」とアドバイスした。

JAごしょつがる



これまでない食感「はれわたり」講習 (3/3)

JAごしょつがるは、2023年産米「はれわたり」の栽培講習会をJA本店で開いた。23年の作付け予定の生産者に加え、関心のある組合員71人が参加。県で23年に本格デビューする「はれわたり」について、品種特性、栽培の要点について学んだ。22年産の試食会も行い、試食した生産者は「ふわふわ、もちっとした食感でおいしい。今後は販売戦略がカギになりそうだ」と期待した。

JAつがる弘前



地域に密着した支店を目指して

Aコープ商品の料理教室開催 (2/27)

JAつがる弘前和徳支店は、同支店でAコープ商品を使った料理教室を開いた。地域の活性化とJAが取り扱っているAコープ商品の魅力を知ってもらうことを目的に、昨年8月に引き続き2回目の開催となった。

講師は、身近な野菜とAコープ商品の「ほめられ酢」「かつおだし」「はるさめ」を使用して全8品完成させ、Aコープ商品の魅力を伝えながら作り方を説明した。

JA相馬村



直売所『林檎の森』、

リニューアル3周年記念祭開催 (3/18~21)

JA直売所『林檎の森』で、リニューアル3周年記念祭が開催され、旬の野菜や特産品を買い求めるお客様でにぎわった。日頃の感謝を込めて、ソフトクリームとシェークを安値で販売するとともに、各日限定数で買い上げ特典を用意した。お客様は「特典がもらえてうれしい」「干しもちを買いに来た」「ソフトクリームが安いから家族で買いました」などと笑顔で話した。



JA津軽みらい

桃の剪定しっかり（3/2）

JA津軽みらいもも生産協議会は、平川市で桃の剪定会を開き、会員約30人が参加した。栽培技術向上と知識習得を目的としており、品質の良い桃を栽培するための剪定作業のポイントや注意点について学んだ。

剪定会終了後にはJA本店で、2023年産桃の防除暦説明会を開いた。



JAゆうき青森

ながいも部会 栽培講習会開催（3/7）

JAゆうき青森野菜振興会ながいも部会は、東北町でナガイモ栽培講習会を開いた。講師に岩手県でナガイモを栽培している庄司敬介さんを招き、43人の会員が参加した。庄司さんは「ナガイモ栽培における土作り」をテーマに、栽培体系や土作りから収穫までの概要、昨年の8月に発生した大雨・長雨の影響で品質低下が招かれたことから、排水対策についても説明した。



JA十和田おいらせ

「ももいしいちご」お待たせ

県内スーパーなどに6月まで並ぶ（3/15）

JA十和田おいらせももいし支店管内の苺集出荷所では、生食用イチゴ「ももいしいちご」の出荷が盛んに行われている。大きさに若干のばらつきはあるものの、甘みは十分に食味も良好。出荷は6月中旬まで続き、JA直売所「かだあ〜れ」や「おはよう広場」、県内食品スーパーなどに多い時で1日1000パック（1パック250g）を出荷する。



JAおいらせ

女性部通常総会開催（2/22）

JAおいらせ女性部は、三沢市で令和4年度女性部通常総会を開催した。提出議案は全て承認され、令和5年度の活動計画として女性組織やJAを取り巻く環境、情勢、課題に「気づき、見直し」、JAとともに「見える組織・見える活動」の実践に向けて、積極的に取り組み、「食の安心・安全」、「地産地消」を進めるための活動や、子ども達への食農教育を継続していくこと等を確認した。



JA八戸

バックチャーム作り楽しむ（3/4）

JA八戸は、八戸市のcoworking café estacionで冬美活講座を行い、管内在住の女性7人が参加した。あとりえkimono 紅の寺下佳光さんが講師を務め、バックチャームを作った。参加者は和柄や無地などの色とりどりのちりめん生地を使い、丸つまみで花型になるよう仕上げ、「普段使っているバックの色を思い浮かべながら作った。満足のいく出来となった」と話した。

認知症サポーター養成講座

JA青森中央会は3月8日、県農協会館で「認知症サポーター養成講座」を開き、各連合会の職員ら17人が参加し、認知症の人への対応について学んだ。

同講座では青森市東青森地域包括支援センターの職員3人が講師を務め「認知症は誰にでも起こりうる病気」とし、認知症の人への対応の心得として『驚かせない』『急がせない』『自尊心を傷つけない』を心がけてほしいと説明した。

また、同講座の終わりには講師による寸劇が行われ、参加者らは「認知症の人への対応について、良い例、悪い例を見ることで、より理解を深めることができた。今後に活かしたい」と話した。



▲寸劇を行う講師ら

くらしの活動研修会「支店だよりづくり～JAの情報を効率的に伝えるノウハウ～」

JA青森中央会は3月13日、県農協会館で「支店だよりづくり～JAの情報を効率的に伝えるノウハウ～」をテーマで、くらしの活動研修会を開いた。JA職員ら23人が参加し、より多くの組合員や地域住民に参加してもらうためのチラシ作りについて学んだ。

同研修会は「特定非営利活動法人男女協同参画おた」の坂田静香理事長が講師を務め「企画内容も大切だが、チラシの見せ方で集客に差が出る。対象者を明確にし、掲載する記事の優先順位を決めることがポイント」と説明した。

参加者からは「キャッチコピーを変えるだけで見違える。優先順位を意識したタイトルを心がけチラシを作成したい」と話した。

また、同研修会では「新入職員紹介の支店だよ

り」を作成するグループワークも行われ、参加者は意見交換をしながら課題に取り組んだ。



▲グループワークを行う参加者ら

県下JA女性部長・支部長・事務局合同研修会

県JA女性組織協議会は3月15日、県農協会館で、県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議と「発達障害を理解する～私たち女性部ができる事～」をテーマに研修会を開き約60人が参加した。

同協議会の成田縫子会長は「2019年のJA女性大会で同じ講演をしていただきましたが、もう一度聞きたいとの声が多かったので再度お願いしました。この研修会から女性として母として農業者として多くのことを学んで下さい」とあいさつした。

講師は青森県発達障害支援センター「ステップ」の町田徳子センター長が務め、発達障害を理解し特性を学ぶことで適切な対応ができるようになる」と説明した。

参加者からは「何気ない『ことばがけ』ひとつが大切だと知った。研修を受けることでたくさんの気づきがあった」と真剣な眼差しで語った。



▲研修内容に耳を傾ける参加者ら

令和5年度 JA青森中央会配置図（令和5年4月1日付）

代表理事会長	雪田 徹
副会長理事	大場 勉
常務理事	小山 主税

総務企画部	
部長	秋田 弘行
次長	新谷 優
総務課	
課長	谷 亮
調査役	相馬 一之 (全共連県本部より出向) 山形 麻美 (全農県本部より出向) 中村 穂穂 (嘱託) 安部 はるか (嘱託) 伊藤 一成 (嘱託) 張山 美咲 (派遣)
企画管理課	
課長	小枝 憲子
調査役	工藤 咲美
副調査役	山内 麻衣子 石岡 美季 (派遣)

農業対策部	
部長	小島 睦男
次長	阿保 潤司 (組織農政課長兼務) 山田 真佐子 (嘱託)
農業支援課	
課長	棟方 涉
調査役	石田 隆徳 (全農県本部より出向) 工藤 有香 林 和也 田村 恵太郎 成田 泰菜 (新採用) 高野 航希 (全農県本部より出向) 吉田 裕一 (全農県本部より出向)
組織農政課	
課長	阿保 潤司 (農政・広報担当)
	小堀 晃生 外崎 夢子 長内 亨公 (新採用)
	(組織・生活担当)
	村上 雄大 舛館 花林 小原 双葉 (組織農政課全般)
	松澤 秀治 (嘱託) 阿部 史子 (派遣)

経営対策部	
部長	野呂 文人
次長	山田 潤 (津軽地区JA担当)
専任副審議役	西村 健 (県南地区JA担当) 砂沢 みずき (派遣)
経営企画課	
課長	一戸 和雄
副審議役	相馬 崇志
調査役	佐藤 悠 古川 智丈 田中 良太 (新採用)
教育研修課	
課長	蒔苗 文彦
調査役	木村 友子 山田 久雄 (嘱託)

(総務企画部付出向)

みのり監査法人	
専任審議役	田村 幸一
専任副審議役	渡辺 信義
専任調査役	平田 佑介
副調査役	木村 稔喜 新保 俊彦 (嘱託) 高村 司 (嘱託)

行事（4/10～5/10）

- 4月
- 11日 定例理事会（県農協会館）
 - 13日 生活指導員連絡協議会監査会・役員会（県農協会館）
 - 20日 県JA女性協通常総会（県農協会館）
 - 20日 県下JA女性部長・支部長・事務局合同会議（県農協会館）
- 5月
- 9日 定例理事会（県農協会館）

JAカードは特典が盛りだくさん！ ご入会とご利用でQUOカードやポイント をゲットしよう!!

JAバンク青森では、2023年4月3日（月）から2024年3月29日（金）までの間に、JAの窓口でJAカードをお申込みされた方へ、もれなく1,000円分のQUOカードをプレゼントする。

さらに、新規入会特典として、ショッピングご利用で最大12,000円相当のポイントがもらえるほか、すでにJAカードをお持ちのお客さまも、JAカードならではの様々な特典が受けられる。

JAカードご利用特典は次のとおり。

【特典①：ご入会サクスプレゼント】

JAカード入会日（カード発行日）から3か月後末日までのショッピングご利用合計額に応じて、20,000円ご利用ごとに3,000円相当、最大で12,000円相当のポイントをプレゼント。

新規に入会した本人カード、家族カードが対象で、カードごとに応募登録（WEB会員サービス「Net Branch」からエントリー）が必要。

ショッピングご利用合計額	プレゼントポイント数
2万円以上（～4万円未満）	750ポイント（3,000円相当）
4万円以上（～6万円未満）	1,500ポイント（6,000円相当）
6万円以上（～8万円未満）	2,250ポイント（9,000円相当）
8万円以上	3,000ポイント（12,000円相当）

※特典の相当金額はポイント交換でキャッシュバックをご選択された場合の金額（1ポイントを4円換算で交換）を記載しています。

【特典②：携帯電話利用料金のお支払いでポイントプレゼント】

携帯電話料金の決済を新たにJAカードで行った会員（本人カード、家族カードとも対象。新規・既存は問いません。）に対して、250ポイント（1,000円相当）をプレゼント。

応募登録は不要で、携帯電話料金の決済が確認できれば自動的にポイントが付与される。

※対象となる携帯電話利用料金は「NTTドコモ」「au」「ソフトバンク」「ワイモバイル」です。

【特典③：JAカードのご利用でいつもお得】

- ✓ JA直売所・ファーマーズマーケットでJAカードをご利用いただくと、ご請求時にご利用金額の5%を割引。
- ✓ JA-SSでJAカードをご利用いただくと、ご請求時に1ℓにつき2円割引。
- ✓ JA直売所・ファーマーズマーケット・JA-SSを除いたJAグループの店舗（Aコープ・JAタウンなど）でJAカードをご利用いただくと、ご利用金額の2%相当金額をポイントで還元。

※一部対象外の店舗・施設や商品・サービスがあります。

ますますお得になったJAカードを是非ご利用を。詳しくはお近くのJA窓口まで。

行事（4/10～5/10）

農林中央金庫

4月

- 13日 青森県JA信用担当部課長会議（県農協会館）
- 18日 令和5年度青森県JA信用・共済事業合同推進大会（ホテル青森）
- 19日 信用事業入門研修（ウェブ会議）
- 20日 事務リーダー会議（ウェブ会議）
- 21日 JAバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館）
- 24日 融資初任者研修（ウェブ会議）
- 25日 ローンセールス研修（県農協会館）
- 26～27日 信用事業新任管理者研修（ウェブ会議）

5月

- 10日 JA信用事業における内部管理態勢向上研修（ウェブ会議）

農協電算センター

4月

- 5～28日 窓口端末機操作研修（貯金・OTM）・8回開催（県農協会館）

5月

- 9日 定時取締役会（県農協会館）

令和5年度 農林中央金庫青森支店配置図 (令和5年4月1日付)

支店長 桐原 豊彦				
副支店長 村田 裕之				
コーポレートサービス班			営業第一班 (017-762-4403)	営業第二班 (017-762-4404)
(総務：017-762-4400)	(窓口：017-762-4407)	(系統決済：017-762-4409)		
次長 山口 将治 土岐 義和 新谷 則子 奈良崎 玲子 野呂 誠	次長 山口 将治 鹿内 之 葛西 瑤子 對馬 萌 新田 佳子	次長 山口 将治 鹿島 美奈 相馬 晶子 渡邊 裕子 猿賀 香澄 藤原 雪乃 木村 真喜子	次長 西 公彦 大水 秀之 最上 静 鳴海 修吾 木村 柺子 簡野 弘毅 三上 千夏 三上 賛 能森 恵佑 豊川 一彦 坂 達徳	次長 柳沼 真吾 次長 西 公彦 石原 大地 岩本 和也 工藤 健斗 平川 遼 永井 麻美子
副支店長 大久保 正也				
J Aバンク総括班 (017-762-4410)	J Aリテール推進班 (017-762-4415)	J A貸出推進班 (017-762-4402)	J A指導相談班 (017-762-4417)	J Aシステム企画班 (017-762-4414)
次長 太田 康佳 吉川 雅也 市村 百香 戸田 光祐 山本 美弥子 大島 咲和 大橋 拓司	次長 福島 毅之 長内 昇平 有本 翔 上北田 春紀 中島 悠斗 神 大貴	次長 葛西 智恵美 小倉 庸幸 渋谷 拓治 中澤 京義 鷲尾 祐輔 山根 啓一 新潟 修	次長 鶴賀 学 鈴木 学 粟谷 秋博 木下 春彦 小浜 雅史 須藤 明日香 貴田 航一朗 野上 賀生 小笠原 茂	次長 山崎 伴 小川 奨 滝田 浩史 對馬 武 船橋 佳於 坂 純一

令和5年度 株式会社青森県農協電算センター配置図 (令和5年4月1日付)

取締役センター長 鎌田 政行			
副センター長 工藤 憲明			
総務部 (017-729-8460)	業務部 (017-729-8540、8735)	管理経済部 (017-729-8500)	
部長 長内 一興 部長代理 中野渡 郁子 秋村 樹 藤原 まりの 青森県農協会館管理委員会事務局長 天内 賢司	部長 工藤 憲明 部長代理 菅原 広大 主任 畑山 順彦 主任 佐藤 全孝 副調査役 今 薫	諏訪 智徳 清野 恵祐 岡田 圭裕 小鷹 悠輔 高橋 慶至 高田 海 新宅 博寿 蝦名 勇斗 久保田 和人	部長 濱中 大介 部長代理 小館 一浩 主任 佐藤 晃穂 調査役 関 洋幸 齋藤 紀文 佐々木 将 長内 侑也 小田桐 紗織 (囑託) 佐々木 壱晟



令和5年度 職員配置一覧

県本部長	桑田 徳文
副本部長	笹森 俊充
副本部長	成田 具洋

管理部

部長	(成田副本部長事務取扱)		
次長	沼田 友行		
臨時	横山 美智子		
企画管理課	課長	今本 和寿	
	課長代理	鹿内 昭智	
		加藤 彩乃	
		加藤 優和	
	嘱託(再雇用)	中屋敷 淳一	
コンプライアンス課	臨時	横山 由果	
	課長	佐藤 貴洋	
総務人事課	課長	泉谷 和美	
	課長代理	種市 雅彦	
		平館 慶徳	
		高橋 結香	
	嘱託	工藤 里佳	
広報宣伝総合課	臨時	工藤 かおる	
	臨時	藤達 也	
	課長	木村 一彦	
	課長代理	大橋 綾子	
		鶴谷 真央	
アグリショップ青森店		三浦 真由子	
	所長	高橋 次郎	
	臨時(短期)	山田 真貴子	

米穀部

部長	長内 敏也		
次長	相場 仁		
米穀総合課	課長	齊藤 仁志	
	課長代理	石山 伸吾	
		田村 一	
	(新採用)	今野 由彩	
	嘱託	薬師 竜広	
	嘱託(短期)	田中 隆之	
	臨時	風晴 清政	
米穀流通課	臨時	深堀 真紀子	
	課長	乙部 高雄	
	課長代理	増田 勝秋	
		成田 淳子	
		石川 達也	
		大田 健朗	
		竹村 歩己	
		松田 秀平	
	嘱託(再雇用)	奈良岡 博治	
	臨時	石澤 早希	
米穀販売事務所	所長	北向 佳介	
		山形 壮平	
大阪駐在		大場 春樹	



パールライス販売課	課長	村田 武志	
	課長代理	森 伸治	
		越田 茂輝	
		平澤 亜美	
		黒滝 京隼	
	嘱託	佐々木 勇太	
	臨時	新野 愛豪	
	所長	岩下 良博	
		高橋 佳資	
	嘱託	山中 大資	
	嘱託(再雇用)	倉内 恒明	
	臨時(短期)	釜 范京	
	臨時(短期)	大瀬 寛士	
	臨時(短期)	奈良 学	
臨時(短期)	阿部 佳幸		
臨時(短期)	横内 寛紀		
臨時(短期)	川村 惇平		
派遣	佐渡 一平		
パールライスセンター			

りんご部

部長	川村 浩史		
りんご課	課長	福嶋 静	
	課長代理	西口 康朗	
		相馬 洋一	
		山形 拓子	
		宮塚 暢凌	
		齊藤 逸平	
		葛西 周光	
		柳町 光平	
	臨時	織笠 美樹子	
	臨時	齊藤 名牧子	

やさい部

部長	坂本 浩		
やさい花き課	課長	竹達 広治	
	課長代理	向井 勝美	
		金澤 展嗣	
		千田 佳央	
		梅村 佳子	
		前田 晃良	
		苔米地 勇誠	
		工藤 亘晟	
		成田 こな美	
	(新採用)	紙谷 咲彩	
	嘱託(再雇用)	石川 浩人	
	臨時	佐藤 彩	
	所長	秋元 陽貴	
		畑山 俊一	
やさいパッケージセンター		宮本 昌浩	
		山形 雅一	
		原 悠基	
		澤田 勇生	
	臨時(短期)	松村 沙織	

青果販売事務所

東京青果販売事務所	事務所長	岩 渕 弘安	
		石塚 照崇	
		成田 真悟	
	臨時	安田 文子	
名古屋青果販売事務所	事務所長	大柴 文孝	
	臨時	石井 裕貴	
大阪青果販売事務所	事務所長	浅野 ひろみ	
		高橋 哲也	
		亀田 智久	
	臨時	山内 大輔	
福岡駐在	臨時	浜野 千恵	
	臨時(再雇用)	佐々木 正至	
		矢野 良美	

畜産酪農部			
部長	三 湯 謙		
畜産酪農課	課長	七 戸 貴 資	
	課長代理	枋 木 清 光	
		高 清 水 祐 一	
		赤 石 健 太 郎	
	嘱託	今 裕 也	
	嘱託(再雇用)	工 藤 絵 里	
畜産事業センター	所長	中 谷 廣 幸	
		鈴 木 真 規	
		今 村 卓 嗣	
		今 勝 勝	
牛乳冷却処理所	臨時	杉 田 拓 哉	
	所長	加 賀 久 美 子	
		駒 井 博 史	
		織 笠 豊	

営農購買部			
部長	長 内 暁		
次 長	小 田 桐 聡		
臨時(短期)	三 浦 強		
	渡 邊 泰 恵		
営農対策課	課長	佐々木 勉	
	課長代理	田 中 嗣 巳	
		岡 山 康 博	
		今 沙 織	
		中 川 洋 平	
		盛 陽 祐	
		土 岐 鈴 夏	
土壌分析センター	(新採用)	佐 藤 混 士	
	所長	(佐々木営農対策課長事務取扱)	
	臨時	田 中 真 紀 子	
肥料農業総合課	課長	藤 田 匡 臣	
	課長代理	成 田 巨 樹	
		米 塚 幸 子	
		中 谷 五 美	
		三 上 功 多	
肥料農業推進課		石ヶ森 海斗	
	課長	佐々木 浩 蔵	
	課長代理	中 谷 貴 昌	
		須 藤 雅 樹	
		木 立 将 志	
		長谷川 欣 哉	
		川 村 光 博	
		岡 田 大 佑	
		岡 村 達 也	
		工 藤 永 真	
		兼 平 莉 里 佳	
	臨時	大 杉 梨 加 子	
	臨時	宮 腰 陽 子	
	臨時(短期)	木 村 成 子	
臨時(短期)	藤 島 祥 子		
八戸駐在		上 平 章 弘	
	所長	齋 藤 幸 樹	
東青地域資材配送センター	臨時	成 田 文 朋	
	臨時	齋 藤 浩	
	臨時	野 呂 順 一	
	臨時	野 呂 順 一	
三八地域資材配送センター	所長	木 村 伸 夫	
	臨時	熊 野 忠 志	
	臨時	小 泉 誠 誠	
	臨時	工 藤 弘 貢	
農機農業資材課	課長	泉 谷 剛	
	課長代理	八 戸 俊 輔	
		長 尾 浩 誠	
		岡 本 雅 子	
		小 田 桐 泰	
		大 久 保 義 男	
		佐 藤 正 信	
	臨時	津 島 勲	
八戸駐在	臨時	唐 牛 由 美 子	
	長 尾 和 朋		

生活課	課長	桑 田 和 仁	
	課長代理	岩 崎 崇 仁	
		前 田 康 宏	
	嘱託(再雇用)	今 正 守	
	臨時	前 田 千 賀 子	
	臨時	新 藤 歩	
	嘱託所長	成 田 建 生	
		武 井 将 太 郎	
	臨時	野 月 仁 光 子	
	所長	前 田 哲	
県南LPガスサポートセンター			
津軽葬祭センター	所長	前 田 哲	
やすらぎホールつがる	所長	(前田津軽葬祭センター所長事務取扱)	
県南葬祭センター	所長	岩 田 哲 欣	

本 所			
総務人事部(人事企画課)		佐 藤 陽 子	
耕種資材部(包装資材課)		小 枝 祐 斗	
耕種総合対策部東北営農資材事業所(TAC・生産対策課)		奈 良 岡 寛 久	
施設農住部東北広域施設事業所(青森施設事務所)	所長	(三浦営農購買部次長兼務)	
		齋 藤 憲 史	
		笠 井 洋 介	
	嘱託(再雇用)	小 山 内 隆 浩	
総合エネルギー部 東北エネルギー事業所(青森推進課)	課長	岩 崎 哲 也	
	課長代理	山 崎 隆 行	
		伊 藤 千 尋	
		白 川 巧	
		飯 田 裕 樹	
		半 田 拓 朗	
	嘱託(再雇用)	岡 元 るみ子	

出 向			
J A 青森中央会総務企画部		山 形 麻 美	
J A 青森中央会農業対策部		石 田 隆 徳	
J A 青森中央会農業対策部	嘱託(再雇用)	吉 田 裕 一	
青森県産米需要拡大推進本部(公社)青森県農産物改良協会		関 谷 龍 一	
(一社)津軽中央共同倉庫	臨時	和 嶋 靖 晃	
		泉 谷 慶 志	
王子製袋(株)	嘱託(再雇用)	佐 藤 仁 勝	
昭和ボックス(株)	嘱託(再雇用)	齋 藤 聡	
(公社)青森県青果物価格安定基金協会		棟 方 清 治	
(一社)上十三広域農業振興会		川 村 恵	
J A 全農北日本くみあい飼料(株)		平 山 智 樹	
東北生乳販売農業協同組合連合会		福 士 文 浩	
青森県牛乳普及協会	臨時	佐々木 将 志	
片倉コープアグリ(株)	嘱託(再雇用)	奥 本 瑠 美	
小野田化学工業(株)	嘱託(再雇用)	福 士 学	
日本肥糧(株)		工 藤 勲	
クミアイ化学工業(株)		泉 谷 勝 明	
北東北スカイテック(株)		下 山 真 治	
J A 三井リース(株)		最 上 進 一	
全農物流(株)		工 藤 彩 子	
青森三八五流通(株)	嘱託(再雇用)	加 賀 田 誓 也	
		白 戸 康 浩	

行事(4/10~5/10)	
4月	
11日	運営委員会(県農協会館)
5月	
8日	青森県JA-SS運営協議会第54回通常総会(ホテル青森)
9日	運営委員会(県農協会館)
10日	農産物検査員育成研修開校式(県農協会館)

全農高校カーリング大会

J A全農が特別協賛する「第18回全農全国高等学校カーリング選手権大会」が2月9から12日までの4日間、青森市のみちぎんどリームスタジアムで開かれた。主催は、公益社団法人日本カーリング協会、青森市、全国高等学校カーリング選手権大会実行委員会。

優勝したのは、男子の部・北見選抜（北海道）、女子の部・東北選抜（東北）で、それぞれに青森米「3銘柄セット」180キロと青森県産りんご「サンふじ・王林詰合せ」5キロ、「あおもり和牛プレミアム」4キロを贈った。



▲もぐもぐブース商品で栄養補給する選手ら



▲もぐもぐブース

同大会恒例のもぐもぐブースでは、選手らに試合前後の栄養補給に役立ててもらおうと様々な商品を用意。青森県産品を使用したおむすび、カットりんご、ジュースなどを振舞った。全農が展開するニッポンエール商品の果実グミや乳製品なども合わせて全24種類。「おむすびが美味しい」「『農協ミルク』の甘さが好き」などの声があった。

このほか、りんごタワーの展示やSNSを活用したキャンペーンの展開などで大会を盛り上げた。

全農は食を通じてアスリートをサポート・応援する取り組みを進めている。同大会への協賛はそ

の一環で、他にも卓球やサッカー等のサポートもしている。



▲りんごタワー

青森フェア in 鹿児島

J A全農あおもりは2月11日・12日の2日間、鹿児島市のおいどん市場与次郎館で、青森県産品の販促イベント「青森フェア in おいどん市場与次郎館」を開いた。

会場入り口では来場者に県産りんごの王林を使用した「ニッポンエール」グミをプレゼント。また、11日には歌手でタレントの王林さんによるトークショーや、津軽三味線演奏、12日には青森の郷土料理・せんべい汁をふるまい、会場を盛り上げた。

同フェアでは県産農畜産物やその加工品を25品目販売したほか、県産品を使用した「あおもりハンバーガー」の調理販売も行った。そのほか県産



▲県産品を買い求める買物客

米「青天の霹靂」やりんご、人参ジュース等の試飲・試食を実施し、来場者に県産品の魅力をPR。初日から賑わいを見せ、2日目にはほとんどの商品が完売となるなど大盛況であった。

購入客からは「普段鹿児島では買えない商品も買えてよかった。来年もぜひ開催して欲しい」との声があった。

鹿児島とのコラボフェアは3回目。これまで令和3年12月に鹿児島市で、4年9月に青森市でフェアを開いている。

JA全農あおもり x 青森県農産物振興局

青森フェア

令和5年 2月11日(土)・12日(日)

2/11(土)あおもり 青森の郷土料理 せんべい汁 11:00~

2/12(日)あおもり 青森の郷土料理 せんべい汁 11:00~

抽選会

王林トークショー

TEL.099-253-3153

購買担当者窓口研修会

JA全農あおもりは2月15、16日の2日間、青森市の県農協会館で購買担当者窓口研修会を開き、県内JAから担当者ら約30名が参加した。

JA窓口担当者の対応力強化を目的に開いたもの。窓口対応に必要な、上手な話し方・伝え方を学ぶとともに、肥料農薬や葬祭、土づくりなど、購買事業全般に係わる基礎知識を学んだ。

「相手に伝わる上手な話し方・伝え方」と題して講義をしたのは、元(株)青森放送アナウンサーの上野由加里さん。分かりやすく伝えるコツとして「重要なポイントや難しい単語を話す前に、少し間をおいて話すようにすると上手に話することができる」などと紹介した。

また、系統の肥料・農薬メーカー16社から各社の商品説明があったほか、JA葬祭事前相談窓口のこれまでの取り組みに基づく組合員への接し方などについて共有した。

全農あおもり営農購買部の三浦強次長は「農家・組合員の期待に的確に応えられるよう、研修で得た知識を現場で活かして欲しい」と話した。



▲研修を受ける担当者ら

毎月放送！「Fresh Vegetable」

2月24日放送

JAおいらせ「にんにく」



放送内容は
こちら



3月10日放送

総集編



放送内容は
こちら



今後の放送スケジュール 夕方6時56分から！

・5月5日 JA津軽みらい「アスパラ」

令和5年度 職員配置一覧

<令和5年4月1日付>

本部長	沼田 博文
-----	-------

副本部長	葛西 真司
------	-------

管理部

部長	中谷 勝
次長	福田 光明
企画管理課	
課長 (次長兼務)	小比類巻 淳子 菊池 まき子 (嘱)
総務人事課	
課長	織笠 勝則 岩谷 拓朗 三上 幸代 花井 由美 佐藤 光祥 (嘱) 野宮 里美 (嘱)

事業推進部

部長	七戸 俊文
次長	相坂 康人
推進企画課	
課長	矢野 慶明 工藤 修 長内 克文 松本 詩音乃 坂井 貴子
推進支援課	
津軽地区担当 (青森・五所川原)	
課長	倉本 一仁 佐藤 昂平 戸川 真友美
津軽地区担当 (弘前)	
課長	櫛引 大介 小湊 祥太郎 今 陽子
県南地区担当	
課長	前原 達明 工藤 雅士 舘田 卓磨 古川 浩子 吉崎 麻子 (嘱)
地域貢献課	
課長	須藤 巧 三浦 友美 土田 華鈴 (嘱)

代理店事業課

課長	水嶋 誠 藤田 真紀子 佐々木 舞 (嘱)
----	-----------------------------

業務部

部長	中野 博人
次長	工藤 学
業務総合課	
課長 (次長兼務)	千葉 幸喜 工藤 まどか 櫛引 星希 亀田 朝子 高松 珠美
体制整備支援課	
課長	森本 正宝 中野 雅寿 小倉 倫子 (嘱)
建物査定課	
課長	石岡 一弥 大水 伸彦 村川 真悠 工藤 真由美 大澤 公男 (嘱) 坂本 公利 (嘱) 西田 一明 (嘱) 佐藤 朋子 (嘱)

自動車損害調査部

部長	島元 貢
次長	白戸 康弘
交通事故相談所長 (部長兼務)	
交通事故相談所 参与 木村 勝見 (嘱)	
自動車損調総合課	
課長 (次長兼務)	佐野 茂 (審) 福井 美奈未 (嘱)

青森中央自動車損害調査 S C	
S C長	吉井 基郎
課長	田中 学
	中村 琢也
	福井 恵
	安部 龍一
	升田 昭人 (嘱)
	今 拓道 (嘱)
	川村 巳智仁 (嘱)
	庄司 豊 (嘱)
	澤田 一雄 (嘱)
	小田桐 清光 (嘱)
	岡本 善光 (嘱)
	清水 七恵 (嘱)

弘前自動車損害調査 S C	
S C長	吉川 勉
課長	室谷 栄司
	蛭名 茂和
	鈴木 幸子
	工藤 百恵
	沼山 定継 (嘱)
	田村 準人 (嘱)
	三上 晃 (嘱)
	平山 暢寿 (嘱)
	齋藤 洋一 (嘱)
	小山内 和久 (嘱)
	鎌田 真那美 (嘱)
	山賀 真優美 (嘱)

青森県南自動車損害調査 S C	
S C長	沼山 正幸
課長	沼田 邦広
	細川 聖司
	工藤 伸行
	伊藤 郁実
	深沢 隆
	若松 孝文 (嘱)
	阿部 重宣 (嘱)
	佐々木 政敏 (嘱)
	福田 千恵美 (嘱)
	日野口 かおり (嘱)
	藤井 直人 (嘱)
	駒井 秀樹 (嘱)
	星 明廣 (嘱)

出 向 等

(理事長特命)	内部監査役	太田 学志
(全国本部東北地区業務センター)	課長	成田 和智
()	課長	坂本 一
()		小形 憧
()		菊地 雄大
()		佐藤 薫
(管理部付青森県農協中央会出向)		相馬 一之



「大規模自然災害メニュー」端末操作研修会の開催

J A 共済連青森は、3月6日から20日に「大規模自然災害メニュー」端末操作研修会を開催した。J A ごとに研修会を行い、計91名が参加した。

令和4年度雪災対応に向けて、迅速・適正な損害調査・支払処理を行うために「大規模自然災害メニュー」を活用し、端末およびタブレット端末機の実操作方法を周知することを目的としている。

研修では、大規模自然災害対応強化の必要性、生損査定システムにおける「大規模自然災害メニュー」の活用、タブレット端末機における大規模自然災害事案の調査方法についての説明が行われた。



▲研修を受ける参加者

行事 (4/10~5/10)

4月

- 10日 文化支援活動クリアファイル寄贈式 (青森県庁)
- 10~13日 新任 L A 研修会 (青森県農協会館)
- 11日 運営委員会 (青森県農協会館)
- 14日 Lablet's 操作研修会 (新任 L A コース) (青森県農協会館)
- 17日 Lablet's 操作研修会 (新任スマサポ・担当者コース) (青森県農協会館)
- 18日 令和5年度青森県 J A 信用・共済事業合同推進大会 (ホテル青森)
- 18~21日 共済基礎知識研修会/事務手続きコース (オンライン)
- 25~28日 共済基礎知識研修会/共済端末機操作コース (青森県農協会館)
- 27日 自動車共済事故受付・現場急行研修会 (青森県農協会館)
- 28日 安心サポーター任命時必須研修 (青森県農協会館)

5月

- 9日 収納・共済資金管理事務基礎研修会 (オンライン)
- 運営委員会 (青森県農協会館)

ご存じですか？ 農林水産業に携わる皆様にお役立ち情報をお届けしています！

農林水産省では、ホームページやアプリ、YouTube などのコンテンツを活用して、農林水産業に携わる皆様役に役立つ情報をお届けしております。是非一度、ご覧になってみてください。今回は、その中のほんの一例をご紹介します。

お役立ち情報
その1

農林水産省の各種補助事業等に関する情報は「逆引き辞典」で検索！



※希望する県の単独事業も併せて掲載しています。(一部都道府県)

逆引き辞典はこちら <https://www.gyakubiki.maff.go.jp/appmaff/input/>

お役立ち情報
その2

これから農業をはじめの方々への応援バイブル！
“青森で農業はじめました”



事例集はこちら

<https://www.maff.go.jp/tohoku/tiiki/aomori/index.html#zireisyu>

お役立ち情報
その3

スマートフォンアプリで
最新情報をお届け！

MAFFアプリ

農林水産省に役立つ情報が直接届く。
現場の情報を直接届ける。

主な機能

- ・政策情報等を直接配信
- ・ユーザーの作目や関心事項に応じた記事が届く
- ・大切な情報はプッシュ通知でお知らせ
- ・現場の情報を直接、農林水産省に送付できる「マフちよく」機能を実装 など

e-MAFF のオンライン申請もできます

ダウンロードは
こちらから
(無料)

お役立ち情報
その4

水田農業の未来を考える動画コンテンツの配信について

令和5年産の作付計画や中長期的な産地づくりの方針などを検討する際に必要となる、水田農業の取組方針や、飼料用米の支援のあり方、米の輸出、麦、大豆などの各品目の需給動向などの情報を解説動画として配信します。地域における産地づくりの話し合いの際などに是非ご活用ください。

YouTube (MAFFチャンネル) に公開中！

<http://www.youtube.com/user/maffchannel>

これからも皆様に役立つ情報をお届けします。

東北農政局のホームページはこちらから ⇒ <https://www.maff.go.jp/tohoku/index.html>

組織農政通信

食料・農業・農村基本法の見直し等の政策提案にかかる意見等の把握について

J Aグループでは現在「食料・農業・農村基本法の見直しおよび令和5年度食料・農業・地域政策推進に向けたJ Aグループの政策提案」にかかる意見・課題・要望を募っている。

令和4年11月にJ A全中が示した考え方について意見を募り、令和5年3月の理事会で同政策提案の素案を取りまとめた。この素案について現在意見等を募っており、5月の理事会で正式に政策提案をまとめる予定である。

本県では、去る3月16日に素案についての説明会を開催し、各J Aにおいて組織討議をお願いしたところである。主な内容については次のとおりである。

1. 食料・農業・農村基本法の見直し

(1) 食料安全保障の強化

まずは、食料・農業・農村基本法の見直しについてですが、昨今の新型コロナ、円安、ウクライナ情勢の影響を考えると、「平時」における食料安全保障の強化を基本法の目的として明確に位置付けること。

また、輸入農畜産物に依存している日本にとって、世界的な人口の増加や自然災害の発生により不安定とならないよう、国内での農業生産の拡大を図ること。

(2) 再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容

つぎに、持続可能な農業の実現に向け、適正な価格形成を意識し、生産・流通コスト等の価格転嫁が図られるような仕組みづくりを構築すること。

また、食料自給率の向上にもつながる「国消国産」の取組みについて、国民の理解醸成・行動変容を促すこと。

(3) 農業の持続的な発展に関する施策

農家人口の減少や高齢化が深刻化する中で、認定農業者などの担い手のみで生産を担うことが厳しくなっていることから、農地の受け皿となる経営体や家族経営など、多様な担い手を確保すること。

また、生産資材等も輸入に頼っている日本にとって、世界情勢の不安定化などによる価格の高騰対策も必須となっており、経営安定対策について、農産物の価格変動影響緩和対策に加え、生産コストの変動に対しても影響緩和対策を講じること。

(4) 農村の活性化、都市農業の振興

農業の多面的機能の発揮、環境保全型農業の推進に向けた施策として、日本型直接支払いを基本法に位置付けるとともに拡充すること。

(5) J Aなど関係団体の役割強化

J Aなど農業団体が食料・農業・農村振興に果たしている役割を基本法に明記し、関係団体・地方公共団体との連携強化、その役割発揮に必要な施策を講じること。

2. 食料・農業・地域政策の確立

この項目については、前項の「食料・農業・農村基本法の見直し」の各項目について、基本法の見直しに必要とされる、政策の実現、それに伴う予算措置を講じるよう、それぞれ運動方針や具体策が記されている。

(中央会 農業対策部)

実践 農業者支援

令和4年度新規就農者支援および農業労働力確保にかかる 主な取組実績

J A青森四連では、平成28年度より「農業者の所得増大」等に向け、J Aが主体となって取組む農業者支援について連携し、補完・支援している。

今回は、令和4年度に取組んだ農業者支援事業の中でも、新規就農者支援および農業労働力確保に向けた取組みについて紹介する。

1. 新規就農者育成・確保対策

J Aと県連は、J Aの実務担当者を構成員とした「新規就農者支援対策作業部会」を中心に、次の内容を企画、実施した。

(1) 「J A版新規就農者支援パッケージ（募集段階から就農・定着するまで）」の策定支援

昨年度に引き続き、今年度新たに1 J Aにおいて新規就農希望者が取組み易い作物に特化した支援内容や耕作面積等をもとにした経営収支目標を盛り込んだ「J A版新規就農者支援パッケージ」の策定に取組んでいる。

また、新規就農者の農業技術習得のため、弘前大学と連携し、りんご栽培技術現地研修会を6回開催した。

(2) 農業経営承継支援

りんご経営における第三者承継モデルである「J A青森浪岡地区新規就農受入協議会」において、研修を希望する就農希望者を受入れるため、受入条件の確認や面談内容、研修前事前体験会等の具体的内容、青年等就農計画策定等について、J A青森とともに協議した。

また、令和3年度に当該協議会へ加入した第1号研修生は、令和4年4月に就農し、現在70aのりんご園を順調に経営している。

(3) 親元就農支援

J Aが親元就農を後押しするための具体的対策を検討するにあたり、組合員の承継時にJ Aが果たすべき役割や関与すべき内容を取りまとめるため、親元就農経験者である青森県農協青年部盟友に対しヒアリングするとともに、その結果を各J Aと共有し、今後の取組み材料とした。

2. 農業労働力確保対策（J A無料職業紹介事業の機能強化対策）

J Aと県連は、J Aの実務担当者を構成員とした「農業労働力確保対策作業部会」を中心に、県内10 J Aの無料職業紹介事業強化に向け、次の内容を企画、実施した。

(1) 県内J Aの無料職業紹介事業

平成29年度から令和4年度までのJ Aにおける求人数、求職数およびマッチング数は下表のとおり。

「年度別求人数、求職数およびマッチング数の推移」

(単位：人、件)

	H29	H30	R元	R2	R3	R4（4月～1月）
求人数	99	211	388	805	537	349
求職数	73	165	214	447	220	128
マッチング数	47	105	113	229	141	76

(2) 援農ボランティアを中心とした援農システムの構築と実践

① 県内企業との連携

農家組合員と企業や団体等のボランティアを結び、援農を通じて農業理解と地産地消の意識向上、労働力不足への対応を目的とし、平成30年度より実施しており、今年度で5年目となる。

「県内企業との援農ボランティア活動内容」

実施時期	実施回数	受入農家数	参加人数 (団体数)	受入 J A数	主な作業
7月1日～11月5日	10回	44戸	延べ202名 (8団体)	10J A	にんにく収穫・植付、りんご葉取・収穫、ごぼう収穫等

②県外企業との連携

日本航空乗務員による援農活動(りんご摘果・葉取・収穫作業)について、希望する5J Aの協力を得て実施した。

「県外企業との援農活動内容」

実施時期	実施回数	受入農家数	参加 人日数	受入 J A数	主な作業
6月1日～10月31日	12回	15戸	延べ 398人日	5J A	りんご摘果・葉取・収穫

3. 農業労働力確保対策(青森県J A農業労働力支援センターによる対策)

令和2年2月4日、本会内に開設した「青森県J A農業労働力支援センター」を中心に求職者募集、マッチング向上対策に重点を置き、次の事項に取り組んだ。

(1) 人材派遣会社との連携

J Aにおいて、無料職業紹介事業を実施しているものの、「収穫期における緊急的な求職依頼」に対しては、なかなかその対応ができていない。そのため、組合員が求める緊急的なニーズに対し、迅速に対応することを目的に、パートナー協定を締結した企業との調整を行った。各J Aが実施している無料職業紹介所との関係性としては、補完機能として整理している。

(2) 外国人材監理団体との連携

「農協請負方式」(夏季は農家圃場での農業実習を行い、冬季はJ A施設での農作業実習を行う仕組み)による実習が円滑に行われるよう、導入J Aに対し支援した。また、外国人材を労働者として位置づけ、雇用できる「特定技能制度」の導入を希望する2J Aに対し、登録支援機関(パートナー協定を締結した監理団体)とともに導入に関する支援を行った。

(3) 農作業従事者募集チラシの配布

令和4年8月6日、収穫作業等の農繁期にあわせ、農作業従事者募集チラシを県内三紙全購読先(約35万軒)に折込んだ。

(4) マッチングサイトを使った求職者募集

令和2年4月から、県より無償貸与を受けた「青森県農業労働力求人マッチングサイト」を本会で運営し、10J Aが当該サイトを活用した。

(5) 農家組合員に対する雇用意識啓蒙活動

12月8日雇用・労務管理研修会を開催し、農家が雇用する際の留意点について、J A担当職員に向け周知した。

この取組みは、一部J Aで導入している1日単位でのバイトマッチングアプリについて、J Aから組合員に対し、活用する際の注意点について周知徹底を図ってもらうことを目的としている。アプリの活用により、これまでより容易に外部労働力を確保できる。しかし、活用にあたっては、万が一の事故等が懸念されることから、農家組合員個々が適切な労務管理知識を習得し、かつ、しっかりとした雇用意識を持つ必要があるとの認識のもと開催している。

(中央会 農業対策部)

経営の窓口

労働生産性の向上を考える

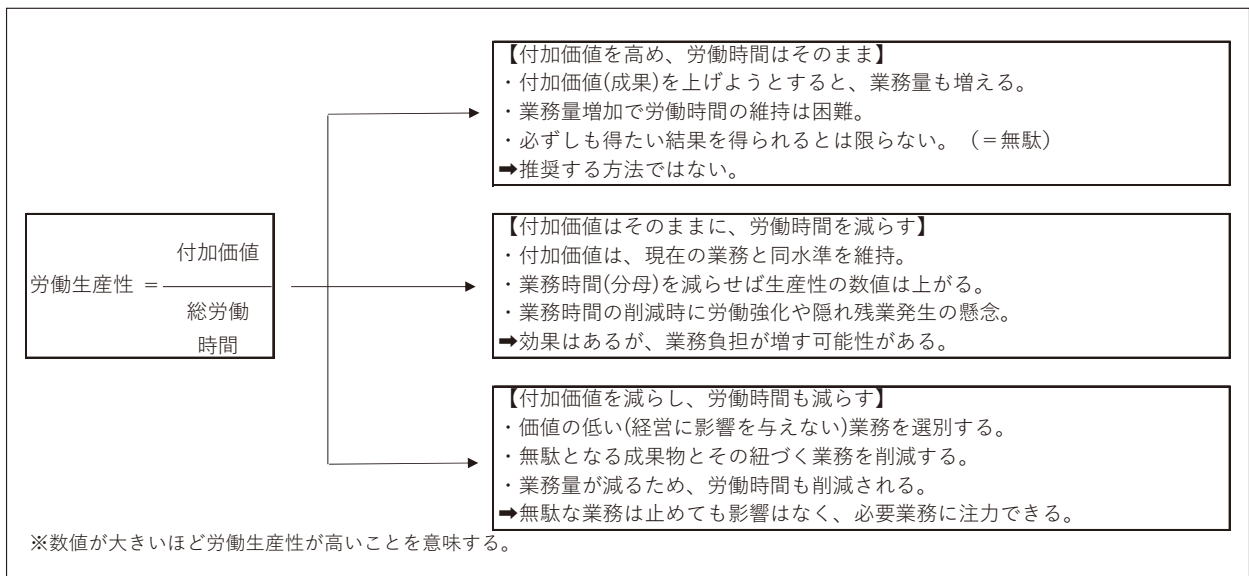
1. はじめに

絆の2月号において、「収益性向上」を目的とした「各種費用の削減」について触れたところであるが、「収益性向上」の方策としてはもう一つ「業務効率化」があげられる。

業務効率化をどう考えるかだが、「無価値」「低付加価値」の業務を見える化し、その業務を無くし、そこに投入する労働時間を減らすことで「労働生産性」を高めることを考えていく。

2. 労働生産性とは

まず、労働生産性の考え方について下図をご覧ください。



労働生産性の向上には、「付加価値(成果)」を大きくするか、「総労働時間」を小さくすることで求められる。収益性の向上を考えるときに、JAのために付加価値を増やすことを考える方は多いだろうが、上図の通り労働時間を維持するとすると職員の負担が大きくなり疲弊する恐れもある。また、職員の業務削減を図るにも労働強化などになってはやはり職員が疲弊してしまう。

そこで考えたいのが、業務量・労働時間を両方削減する方法である。同時並行的に削減することで、業務量削減後の職員の負担も軽減され、重要業務にマンパワーを振り向けることが可能となる。

今回は労働時間の削減のアプローチの一つである「タイムレポート分析」についてご紹介する。

3. タイムレポート分析とは

タイムレポート分析とは、業務に費やした時間を記録し、週・月単位で集計し、その内容を評価して、効率的な業務時間配分がなされているか否かを分析する評価手法である。

実施にあたっては、最初に業務量調査を実施する必要がある。これは特定の期間を対象に各職員の業務を見える化するものである。この際注意すべき点として、無駄な時間や低付加価値、無価値の業務に費やした時間を無意識に他の業務の時間に振り向けてしまうと、正確な業務時間を把握できず、無駄な時間の使い方が見えなくなることであり、ご留意いただきたい。

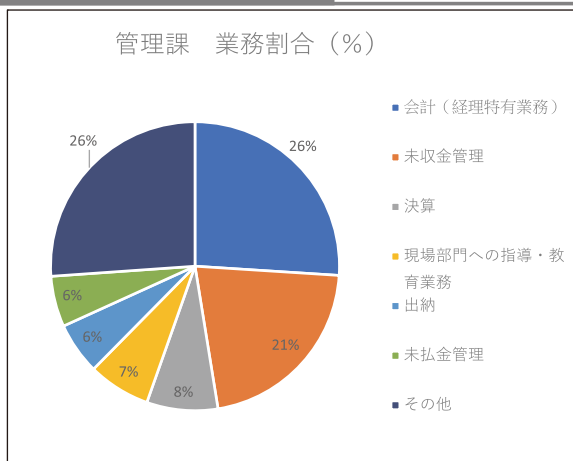
【業務量調査の例】

【業務内容】				年間	毎日	人日換算	時間換算	就業時間換算		
				日	時間					
営農米穀関係	集荷・販売関係	米等の集荷業務	集荷予約の取りまとめ	1	20	0.0	20	160	192	
		検査・入出庫	検査事務、入出庫作業	2		1.0	27	214	257	
		米等の直接販売業務	受発、代金精算、販路開拓	3		2.0	54	428	514	
		販売精算業務		4		1.0	27	214	257	
		実行組合関係業務	実行組合、稲作部会等の指導、事務	5		1.0	27	214	257	
		その他業務		6		1.0	27	214	257	
	利用事業関係	育苗センター業務			7	6		6	48	58
		CE、RCの施設運営			8	10		10	80	96
		農機具利用業務			9	10		10	80	96
		その他利用事業	防除組合対応等	10				0	0	0
	水田業関係の管理業務		経理、人事・労務		11		1.0	27	214	257
	組織対応業務		実行組合、青年部、女性部		12			0	0	0

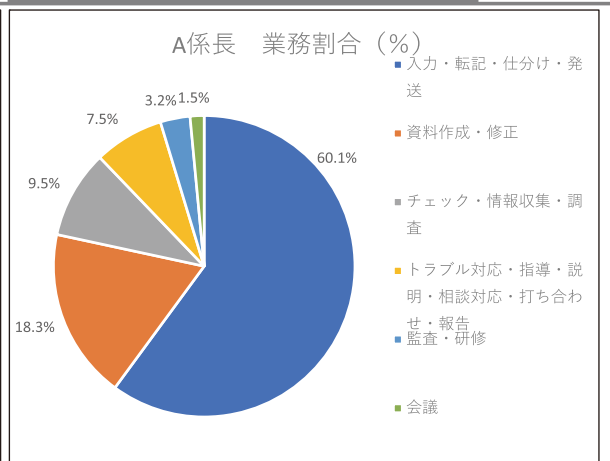
業務量調査実施後は、その中から特異なポイントを抽出し、業務の削減が可能だと思われる部分について詳細な分析を行うことで、より効果的に業務量削減につなげることができる。実施するにあたっては、各部門から職員を集めてプロジェクトチームを作り、現場の意見を交えながら進めることが望ましい。

【業務削減検討結果の例】

管理課の業務割合



管理課職員A係長の業務割合



業務削減の方針

過度な内部統制の影響により、現業部署での確認の実施や役員用資料の作成など、重複感のある業務が多くなっていると考えます。

そのため、業務の選択と集中、およびシステム化により、業務削減を図ることとする。

4. さいごに

職員すべての業務についてピックアップし、そこから分析をすることは、日々の業務があるなかで容易ではなく職員の理解も必要となる。また実施するにあたっては、慣行や既成概念を打破することが求められることも予想される。しかし、業務の選択と集中はどこかの場面で必ずや必要になってくるであろう。そして、業務量削減といった働き方改革も並行して実施し、職員全員がゆとりを持って仕事をできる環境を整備することが大切である。2月号の経費削減と併せて、各JAにて取り組む際には本会も支援していく。

(中央会 経営対策部)

地元農産物などをPRし大好評

J A 青森の女性部や農産物加工グループなどがPRした新鮮な地元野菜や加工品・スイーツが大好評である。

去る10月にJ Aの羽白野菜集出荷センターで開催した「第13回J A秋まつり」には女性部らが出店し、約800人の来場者で大いに賑わい、先着500人には豪華プレゼントを配布した。

2019年までは「新そばまつり」という名称で、東青地域のブランドそば「あおもり海道そば」の新そばの茹でたてを提供するイベントだったが、コロナ禍のため20年から名称を「J A秋まつり」に変更した。

来場者へのプレゼントはJ A共済地域貢献活動事業を活用し、あおもり海道そばの茹で麺3食の他、まっしぐら2キ、あおもり海道そばを使用したロールケーキ（カット）の詰め合わせ。受け取った来場者は豪華プレゼントに頬を緩めた。

8月の豪雨により、東青地域のそばは甚大な被害を受けた。J A 青森営農販売部藤田喜久雄部長は「なんとかプレゼント分の数量のそばは確保でき、ホッとしている。自宅で香り高い新そばを楽しんでほしい」と話した。



買物客で賑わうJ A秋まつり会場

浪岡リンゴ食べて 佐賀市の子ども園などにリンゴ贈呈

J A 青森は2月20日、佐賀県佐賀市内の認定こども園など51園に青森市浪岡産のサンふじ6040個を贈った。贈呈式は学校法人佐賀学園神野こども園で開かれ、代表の園児らがJ A 青森の長谷川春樹組合長から笑顔でリンゴを受け取った。対面での贈呈は3年ぶり。

佐賀青果市場が全国で最もJ Aのリンゴを取り扱っていることから、1988年にJ Aによる贈呈が始まった。以来、毎年佐賀県を訪れてリンゴの贈呈を行ってきたが、昨年、一昨年はコロナ禍のため贈呈式は行わず、リンゴのみ送っていた。



園児にリンゴを手渡し顔がほころぶ長谷川春樹組合長

今年はサンふじを151ケース（1ケース40個）、計6040個を贈呈。贈呈式で長谷川組合長が「青森県という雪が多いところから皆さんにリンゴを届けに来ました」と日本地図で青森県の位置を指さしながら自己紹介すると、遠くから来たことを理解した園児らから大きな歓声があがった。「リンゴを食べると風邪やコロナに負けない元気な体になるので、たくさんリンゴを食べてくださいね」と挨拶し、代表園児らにリンゴを手渡した。

贈呈式には、青森市の観光キャラクターでリンゴを頭にかぶった犬の「あぶたん」も登場し、式を盛り上げた。



輝き

JA全農あおもり
やさい部 やさい花き課
なりた こなみ
成田 こな美 さん

●プロフィール
2021年4月から勤務 青森市出身 25歳

働くきっかけは？

実家が兼業農家であり、また大学は農学部に進学したことから農業に関わる仕事をしたいと思い、志望しました。

業務内容を教えてください。

今までは、精算や価格安定事業、事務処理を担当していました。4月からは青森地区の推進業務を担当することになりました。

働いた感想は？

販売、指導、宣伝関係等、様々な業界と関わる機会があり、業務の幅広さに驚きました。多様な知識が必要であり、日々勉強です。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？

分からないことがあってもとりあえず自分で考え、不安な点は、周りに確認してから業務に取り組むことを心がけています。また、優先順位をつけて仕事をするように意識しております。

特技・趣味は？

趣味は、カフェ巡りです。特に、純喫茶のようなレトロな雰囲気が好きで、常にInstagramをチェックしています。

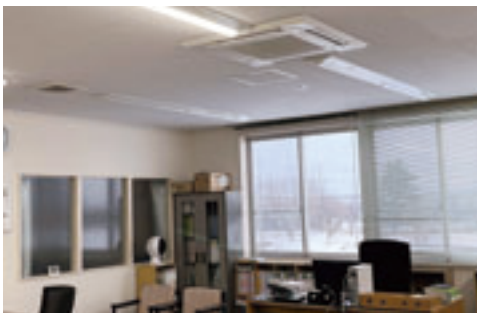
あなたが自慢できることは？

名前の珍しさです。父、母、姉の名前の頭文字をとって名付けられました。

将来の夢は？

将来は、ゴールデンレトリバーと一緒に暮らしたいです。

こまめな節電で電力使用量ダウン



外出中の職員の座席上の電気（右奥）をこまめに消す

JA青森では、各拠点内の照明機器等の電源をこまめに切り、消費電力を抑える取り組みをしている。東北電力（株）が進める節電キャンペーンにも積極的に参加し、SDGsの目標7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の達成を目指す。

JAでは各拠点で節電の取り組みを行うため、職員が閲覧できるネットワーク上の掲示板を利用し「暖房の設定温度を基本24℃にする」「フロアの電灯を何ヶ所か消す」などを呼びかけている。

JAが参加する東北電力（株）の節電キャンペーン（月時型）の2023年2月の結果を見ると、8つの拠点で前年同月の電力使用量を下回ったことがわかった。

総務課の梅田義貴課長は「節電はSDGsの目標達成やJAの経営安定につながる非常に意義のある取り組み。目標達成のため、今後も職員の協力を仰ぎながらできることを着実に実践していきたい」と話す。

催事カレンダー

開催日時	JA名	イベント名	開催場所	問合せ先		備考
				部署	電話番号	
4月1日(土)～ 5月7日(日) 9時30分～18時30分	JA全農あおもり	アグリショップ青森店リニューアルイベント	アグリショップ青森店（県観光物産館アスパム1階）	広報宣伝総合課	017-729-8637	詳細はホームページまで
4月16日(日)	JA全農あおもり	2023 あおもり桜マラソン	野木和公園～青い海公園（ブース出展：青い海公園）	広報宣伝総合課	017-729-8637	主催：青森市、（一財）青森陸上競技協会、あおもり桜マラソン実行委員会



女性部の講座で作成した
PPバンドかごを手にする山本さん



山本ヒデさんは、六戸町でニンニク、水稻、ソラマメを夫婦で栽培している。2009年にJAおいらせ女性部へ入部し、今は女性部の部長を務めている。

入部当時を振り返り「家と畑を往復するだけの生活の中、女性部の活動がリフレッシュになると思った」と山本さんは語る。

山本さんは昨年度「食育ソムリエ」に合格。また、六戸町内の菓子店閉店に伴い自身で名物菓子の製造を引き継ぎ「道の駅」で販売。地域で愛された素朴な味わいを現在につないでいる。

さまざまな活動に意欲的に挑戦する山本さんのモットーは「もともといろいろなことをやってみたい思いがあり、子育てが一段落したら好奇心の羽がパタパタと広がってきた。女性部活動も同じで、何よりみんなが楽しんでいる声を聞くのが好き」と話す。

これまでは新型コロナウイルス感染症の影響で活動を制限されることが多かったが、緩和に伴い、子育て世代が参加しやすいベビーシッター付きの講座を女性部で開催する他、男性向けの料理教室などの企画を新しく検討中。山本さん自身も楽しみながら女性部との活動は続く。

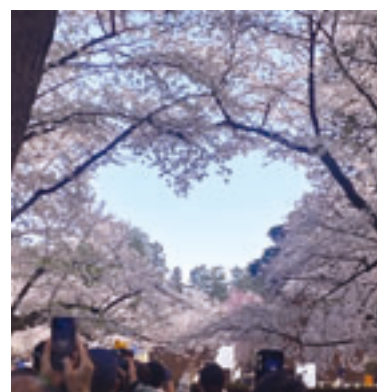
後編 編集 記集

3月人事異動が出た、当然なのか担当2年目に突入、よって編集後記もワンパターンでしたが、今年度は内容を変えていきますので、皆様よろしくお願いたします。

さて、皆様もWBCを見て一喜一憂かと、日本代表優勝バンザイ！感動をありがとう！、とにかくSAMURAI JAPANのすごさを、大谷翔平のすごさを世界に見せつけたブラボーな大会だった！

4月に入り桜の開花が待ち遠しく感じます。コロナも落ち着いてきた？ので、今年の桜祭りが楽しみです。私は弘前市在住につき、弘前公園です

が、ちなみに公園内で木々の間がハートマークになっている撮影スポットがあります。参考に写真を載せますので、ぜひ公園に行き見つけてください！（有名すぎてすぐ見つかるでしょう）



それでは皆様、「SEE YOU ON MAY!」

(一)

ホームページアドレス

- JA青森中央会 <https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/>
イベントの様子、歳時記、産直・JA情報などをご覧いただけます。
- JAバンク青森 <https://aomori.jabank.org/>
商品・サービスのご案内のほか、マネーシミュレーションや全国のJAバンクへのリンク等をご覧いただけます。
- JA全農あおもり <https://www.zennoh.or.jp/am/>
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。
- JA共済連青森 <https://www.jakyosai-aomori.jp>
JA共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。